

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター この街きつず学園		
○保護者評価実施期間	2024年11月28日		～ 2024年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 41
○従業者評価実施期間	2024年11月28日		～ 2024年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 32
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	分かりやすい開かれた環境作り	スケジュールや視覚支援等構造化されて、わかりやすく集中しやすい環境を作っている。安心して一人一人が生活しやすく工夫している。部屋の両サイドの戸にマジックミラーが付いている、気が散らないように中からは見えないが、廊下から姿が見えるため、保護者や職員誰もが部屋内を見ることができる。	スケジュールや視覚支援等、子どもにわかりやすい生活環境を保護者と共有し、家族が出来る支援の提供を充実させていきたい。
2	職員間の連携	複数担任制のため、子どもたちの安全に考慮し、部屋を出ていく時等、誰と一緒にどこへ行くなど常にお互いが声掛けをしながら支援している。児童発達通園と放課後等デイサービス職員が助け合って支援の充実を図っている。異業種(保育士・児童指導員・訓練士ST/OT/PT・嘱託医・看護師・栄養士など)がそれぞれクラスの中に入り、連携して支援を行っている。	更に、職員の資質の向上のために、それぞれ学び合える環境を整えていきたい。
3	丁寧な移行支援	保育園・幼稚園・学校等移行していく子どもたちの、見学・体験等に同行し、受け入れ先へ丁寧引き継いでいる。移行支援会議で情報共有を図ったり、移行先の職員の見学を受け入れたり等を丁寧に行っている。	移行してからの保護者支援や引継支援の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材育成・確保	女性の多い職場でもあり、結婚や出産での退職が重なる。そのため中間層の年齢の職員が少ない。	複数担任制なので、キャリアのある職員から実践を通してアドバイスをもらいながら専門性を磨いていきたい。くるみん認定を取得していること等、働く女性を応援している法人としてのアピール(HP等)をしていく。業務時間の効率化を図り、より働きやすい環境を作る。
2	業務量の多さや休憩時間の取得	記録するものも多く、バス添乗や長時間対応等、子どもたちのいる時間に休憩をとることが難しい現状がある。	清掃委託等利用し、少しずつ休憩をとれるように配慮している。事務処理に関しては良いソフトを検討していきたい。
3	保育に欠ける保護者支援	国で定める療育時間 5時間(9:30-14:30)を、現在必要なご家庭には2時間延長し7時間(8:30-15:30)お預かりしています。家庭訪問や個別懇談等による半日当園や通い始めの慣らし期間の親子通園、家族の感染症おいての様子見休園等に関して、フルタイムで働くご家庭では療育施設を使いたくても保育園を選らばざるをえない現状です。	タイムケア等不足しているため、家族支援として、地域全体で資源の開拓をそう進めていくか検討していきたい。